

常磐大学 学部共通科目等（学部基本科目を除く） 成績評価基準・評価指標（ルーブリック）

「学びの技法 I」

評定	S	A	B	C	D
評点	100~90 点	89~80 点	79~70 点	69~60 点	59~0 点
GP	4	3	2	1	0

到達目標	評価項目	評価基準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
(1) 講義等を傾聴し、基本的な文章を読み、その要点を把握できる。	毎回課題である授業の振り返りを、適切な文章にして提出できる。 <文章力>	ほとんど全部の回で、適切な授業の振り返りを、適切な文章にして提出している。	だいたいの回で、適切な授業の振り返りを、適切な文章にして提出している。	だいたいの回で、適切な授業の振り返りを、文章にして提出している。	半分ぐらいの回で、授業の振り返りを、文章にして提出している。	半分未満の回で、授業の振り返りを、文章にして提出している。
(2) ITC機器を適切に利用して情報資源を検索し、基本的な調査・発表ができる。	<情報収集能力>	一つのテーマに関して資料検索を適切に行って数種類の文献を見つけ出し、ほとんどの文献について、その結果を適切な書誌情報リストとして記録している。	一つのテーマに関して資料検索を適切に行って数種類の文献を見つけ出し、だいたいの文献について、その結果を適切な書誌情報リストとして記録している。	一つのテーマに関して資料検索を適切に行って数種類の文献を見つけ出し、だいたいの文献について、その結果を書誌情報リストとして記録している。	一つのテーマに関して資料検索を行って数種類の文献を見つけ出し、半分ぐらい文献について、その結果を書誌情報リストとして記録している。	一つのテーマに関して資料検索を行って数種類の文献を見つけ出し、半分未満の文献について、その結果を書誌情報リストとして記録している。
	<デザイン力>	すべてのスライドが十分わかりやすく示され、説明されている。	ほとんどのスライドが十分わかりやすく示され、説明されていた。	ほとんどのスライドがわかりやすく示され、説明されている。	半分強のスライドがわかりやすく示され、説明されている。	半分以下のスライドがわかりやすく示され、説明されている。
	<表現力>	声の大きさ、話すスピード、姿勢、目線などの点を、ほぼすべての場合で、配慮している。	声の大きさ、話すスピード、姿勢、目線などの点を、ほとんどの場合で、配慮している。	声の大きさ、話すスピード、姿勢、目線などの点を、たいていの場合で、配慮している。	声の大きさ、話すスピード、姿勢、目線などの点を、半分強ぐらいの場合で、配慮している。	声の大きさ、話すスピード、姿勢、目線などの点を、半分以下の場合で、配慮している。
(3) 論理的に構成されたレポートを作成できる。	<論理的思考力>	序論・本論・結論・参考文献一覧から適切に構成され、十分に内容のあるアウトラインを作成している。	序論・本論・結論・参考文献一覧から構成され、十分に内容のあるアウトラインを作成している。	序論・本論・結論・参考文献一覧から大まかに構成され、十分に内容のあるアウトラインを作成している。	序論・本論・結論・参考文献一覧から大まかに構成され、内容のあるアウトラインを作成している。	序論・本論・結論・参考文献一覧らしきものから構成され、内容も不十分なアウトラインを作成している。
	<文章力・論理的思考力>	以下の観点からみて、適切に構成され、十分に内容のあるレポートを作成することができる。 ・パラグラフ単位で書かれている。 ・論点にそった適切な理由を書いている。 ・理由を適切な資料で支えている。 ・適切な方法で資料を引用している。 ・上記以外の点で（誤字脱字の多さ、日本語文法の誤り、出題要件の無視、倫理に反する内容等）、ミスや間違いがない。	すべての観点で、適切に構成され、十分に内容のあるレポートを作成している。	一点を除き、残りの観点では、適切に構成され、十分に内容のあるレポートを作成している。	数点を除き、残りの観点では、適切に構成され、十分に内容のあるレポートを作成している。	若干の観点で、構成や内容の不十分なレポートを作成している。

常盤大学 学部共通科目等（学部基本科目を除く） 成績評価基準・評価指標（ルーブリック）

「学びの技法Ⅱ」

評定	S	A	B	C	D
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
GP	4	3	2	1	0

到達目標	評価項目	評価基準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
(1) 講義等を傾聴し、基本的な文章を読み、その要点を把握できる。 (2) ITC機器を適切に利用して情報資源を検索し、基本的な調査・発表ができる。	毎回課題である授業の振り返りを、適切な文章にして提出できる。 <文章力>	ほとんど全部の回で、適切な授業の振り返りを、適切な文章にして提出している。	だいたいの回で、適切な授業の振り返りを、適切な文章にして提出している。	だいたいの回で、適切な授業の振り返りを、文章にして提出している。	半分ぐらいの回で、授業の振り返りを、文章にして提出している。	半分未満の回で、授業の振り返りを、文章にして提出している。
	論理的な内容のプレゼンテーションができる。 <論理的思考力>	すべての主張や理由が十分に明示されている。	ほとんどの主張や理由が十分に明示されている。	ほとんどの主張や理由が明示されている。	半分強の主張や理由が明示されている。	半分以下の主張や理由が明示されている。
	プレゼンテーションソフトを効果的に使用できる。 <デザイン力>	すべてのスライドが十分わかりやすく示され、説明されている。	ほとんどのスライドが十分わかりやすく示され、説明されていた。	ほとんどのスライドがわかりやすく示され、説明されている。	半分強のスライドがわかりやすく示され、説明されている。	半分以下のスライドがわかりやすく示され、説明されている。
	適切な資料を適切な方法で引用することができる。 <文章力>	すべてにおいて、適切な資料が適切な方法で引用されている。	ほとんどの場合で、適切な資料が適切な方法で引用されている。	ほとんどの場合で、資料が引用されている。	半分強の場合で、資料が引用されている。	半分以下の場合で、資料が引用されている。
	効果的な口頭発表ができる。 <表現力>	声の大きさ、話すスピード、姿勢、目線などの点を、ほぼすべての場合で、配慮している。	声の大きさ、話すスピード、姿勢、目線などの点を、ほとんどの場合で、配慮している。	声の大きさ、話すスピード、姿勢、目線などの点を、たいていの場合で、配慮している。	声の大きさ、話すスピード、姿勢、目線などの点を、半分強ぐらいの場合で、配慮している。	声の大きさ、話すスピード、姿勢、目線などの点を、半分以下の場合で、配慮している。
協力してプレゼンテーションを行うことができる。 <協働する力>	メンバー全員の活動、あるいはプレゼンテーション活動において、効率的な協力が見られる。	メンバーの一部の活動の多く、あるいはプレゼンテーション活動の多くの部分で、効率的な協力が見られる。	メンバーの一部の活動の多く、あるいはプレゼンテーション活動の多くの部分で、協力が見られる。	メンバーの一部の活動、あるいはプレゼンテーション活動の一部で、協力が見られる。	メンバーの活動、あるいはプレゼンテーション活動全体で、協力が見られない。	
(3) 論理的に構成されたレポートを作成できる。	適切に構成され、十分に内容のあるアウトラインを作成できる。 <論理的思考力>	序論・本論・結論・参考文献一覧から適切に構成され、十分に内容のあるアウトラインを作成している。	序論・本論・結論・参考文献一覧から構成され、十分に内容のあるアウトラインを作成している。	序論・本論・結論・参考文献一覧から大まかに構成され、十分に内容のあるアウトラインを作成している。	序論・本論・結論・参考文献一覧から大まかに構成され、内容のあるアウトラインを作成している。	序論・本論・結論・参考文献一覧らしきものから構成され、内容も不十分なアウトラインを作成している。
	以下の観点からみて、適切に構成され、十分に内容のあるレポートを作成することができる。 ・パラグラフ単位で書かれている。 ・論点にそった適切な理由を書いている。 ・理由を適切な資料で支えている。 ・適切な方法で資料を引用している。 ・上記以外の点で（誤字脱字の多さ、日本語文法の誤り、出題要件の無視、倫理に反する内容等）、ミスや間違いがない。 <文章力・論理的思考力>	すべての観点で、適切に構成され、十分に内容のあるレポートを作成している。	一点を除き、残りの観点では、適切に構成され、十分に内容のあるレポートを作成している。	数点を除き、残りの観点では、適切に構成され、十分に内容のあるレポートを作成している。	若干の観点で、構成や内容の不十分なレポートを作成している。	ほぼすべての点で、構成や内容の不十分なレポートを作成している。

常磐大学 学部共通科目等（学部基本科目を除く） 成績評価基準・評価指標（ルーブリック）

「情報の処理 I /情報の処理」

評定	S	A	B	C	D
評点	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	59～0 点
GP	4	3	2	1	0

到達目標	評価項目	評価基準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
（1）コンピュータの基礎知識を習得できる。	理解度	学修範囲を越えたコンピュータに関する知識やスキルを習得できる。	コンピュータの基礎知識をほぼ完璧に習得できる。	コンピュータの基礎知識を十分に習得できる。	コンピュータの基礎知識を必要最低限は習得できる。	コンピュータの基礎知識を習得できない。
（2）データ・AIの活用事例、最新の動向や使われている技術の概要を説明できる。	理解度	データ・AIの活用事例、最新の動向や技術を学修範囲を越えて詳細に説明できる。	データ・AIの活用事例、最新動向や技術の概要をほぼ完璧に説明できる。	データ・AIの活用事例、最新動向や技術の概要を十分に説明できる。	データ・AIの活用事例、最新動向や技術の概要を必要最低限は説明できる。	データ・AIの活用事例、最新動向や技術の概要を説明できない。
（3）データ・AIを利活用する際のモラルや倫理に留意し、インターネットを使って必要な情報を収集できる。	情報収集力	学修範囲を越えて情報モラルに留意しながら必要な情報を適切に収集できる。	情報モラルに留意しながら必要な情報をほぼ完璧に収集できる。	情報モラルに留意しながら必要な情報を十分に収集できる。	情報モラルに留意しながら必要な情報を最低限は収集できる。	情報モラルに留意しながら必要な情報を収集できない。
（4）表計算ソフトを使って簡単な計算やグラフを作成できる。	資料作成力	学修範囲を越えた応用的な機能を使って複雑な計算や応用的なグラフを作成できる。	表計算ソフトを使って簡単な計算やグラフをほぼ完璧に作成できる。	表計算ソフトを使って簡単な計算やグラフを十分に作成できる。	表計算ソフトを使って簡単な計算やグラフを必要最低限は作成できる。	表計算ソフトを使って簡単な計算やグラフを作成できない。
（5）データの特徴を読み解き、適切にデータを説明できる。	データ分析力	学修範囲を越えた統計手法を使ってデータの特徴を適切に説明できる。	データの特徴をほぼ完璧に説明できる。	データの特徴を十分に説明できる。	データの特徴を必要最低限は説明できる。	データの特徴を説明できない。
（6）ワープロソフトを使って指定されたレイアウトの文書を作成できる。	資料作成力	学修範囲を越えた応用的な機能を使って指定されたレイアウトの文書を作成できる。	ワープロソフトを使って指定されたレイアウトの文書をほぼ完璧に作成できる。	ワープロソフトを使って指定されたレイアウトの文書を十分に作成できる。	ワープロソフトを使って指定されたレイアウトの文書を必要最低限は作成できる。	ワープロソフトを使って指定されたレイアウトの文書を作成できない。

常磐大学 学部共通科目等（学部基本科目を除く） 成績評価基準・評価指標（ルーブリック）

「情報の処理Ⅱ」

評定	S	A	B	C	D
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
GP	4	3	2	1	0

到達目標	評価項目	評価基準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
（1）表計算ソフトの基本操作を理解し、資料として見栄えの良い表やグラフを作成できる	資料作成力	学修範囲を越えた資料作成の技法を使って見栄えの良い表やグラフを適切に作成できる。	表計算ソフトを使って見栄えの良い表やグラフをほぼ完璧に作成できる。	表計算ソフトを使って見栄えの良い表やグラフを十分に作成できる。	表計算ソフトを使って見栄えの良い表やグラフを必要最低限は作成できる。	表計算ソフトを使って見栄えの良い表やグラフを作成できない。
（2）表の意味を理解し、適切なデータ処理を行うことができる	情報処理力	次の三つの理解にとどまらず、学修範囲を超えた応用的な関数や機能を活用してデータ処理を行うことができる。 ・IF関数 ・VLOOKUP関数 ・ピボットテーブル	次の三つすべてを理解した上でデータ処理を行うことができる。 ・IF関数 ・VLOOKUP関数 ・ピボットテーブル	次のいずれか二つを理解した上でデータ処理を行うことができる。 ・IF関数 ・VLOOKUP関数 ・ピボットテーブル	次のいずれか一つを理解した上でデータ処理を行うことができる。 ・IF関数 ・VLOOKUP関数 ・ピボットテーブル	次のいずれも理解できず、それらを活用したデータ処理を行うことができない。 ・IF関数 ・VLOOKUP関数 ・ピボットテーブル

常磐大学 学部共通科目等（学部基本科目を除く） 成績評価基準・評価指標（ルーブリック）

「統計の基礎」

評定	S	A	B	C	D
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
GP	4	3	2	1	0

到達目標	評価項目	評価基準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
（1）統計学の基本的な考え方を理解し、専門性や創造性を高めるために用いることができる。	理解度	統計学の基本的な考え方をより発展的にかつ十分に理解し、専門性や創造性を高めるために用いることができ、統計の事象に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。	統計学の基本的な考え方を十分に理解し、専門性や創造性を高めるために用いることができ、統計の事象に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。	統計学の基本的な考え方を十分に理解し、専門性や創造性を高めるために用いることができるが、統計の事象に関心を持ち、意欲的に取り組むことができていない。	統計学の基本的な考え方を必要最低限理解し、専門性や創造性を高めるために用いることができる。	統計学の基本的な考え方を理解できておらず、専門性や創造性を高めるために用いることができていない。
（2）データを収集し、分析したうえで、分析結果をグラフや図などを用いて視覚的にすることができる。	分析力		目的に必要なデータを収集・選択し、正確に分析したうえで、分析結果をグラフや図などを用いて正確かつ客観的に視覚的にすることができる。	目的に必要なデータを収集し、正確に分析したうえで、分析結果をグラフや図などを用いて正確に視覚的にすることができる。	データを収集し、必要最低限分析したうえで、分析結果をグラフや図などを用いて視覚的にすることができる。	データを収集し、分析したうえで、分析結果をグラフや図などを用いて視覚的にすることができていない。
（3）分析結果やグラフからデータの傾向について考察することができる。	思考力	分析結果やグラフからデータの傾向について正確に判断・表現でき、十分に独自性を伴い考察することができる。	分析結果やグラフからデータの傾向について正確に判断・表現でき、十分に考察することができる。	分析結果やグラフからデータの傾向について判断・表現でき、必要最低限考察することができる。	分析結果やグラフからデータの傾向について必要最低限考察することができる。	分析結果やグラフからデータの傾向について考察することができていない。

常磐大学 学部共通科目等（学部基本科目を除く） 成績評価基準・評価指標（ルーブリック）

「キャリア形成と大学」

評定	S	A	B	C	D
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
GP	4	3	2	1	0

到達目標	評価項目	評価基準				
		授業内容の習熟を超えたレベルに達成している（S）	授業内容の習熟を達成している（A）	授業内容の習熟と到達目標の間にあるレベルを達成している（B）	到達目標を達成している（C）	到達目標を達成できていない（D）
（1）今までの自分を振り返り、これからの自分を考え、目標をもつことができるようになる	目標設定力	今までの自分を十分に振り返ることができ、これからの自分を深く考え、長期目標のために短期の目標設定も段階的にいくつもできている。	今までの自分を十分に振り返ることができ、これからの自分を深く考え、長期目標のために短期の目標設定もできている。	今までの自分を十分に振り返ることができ、これからの自分を深く考え、長期目標をもつことができている。	自分を振り返り、これからの自分を考え、目標をもつことができている。	自分を振り返ることができず、これからの自分を考えることもできず、目標も持つことができていない。
（2）社会の中で働く目的や働き方を理解し、時間の使い方、ワーク・ライフ・バランスのとり方を身につける	働き方の理解	社会の中で働く目的や働き方を十分に理解し、時間の使い方、ワーク・ライフ・バランスのとり方を自分のライフラインに応じてよく考えて身につけられている。	社会の中で働く目的や働き方を十分に理解し、時間の使い方、ワーク・ライフ・バランスのとり方を自分のライフラインに応じて身につけられている。	社会の中で働く目的や働き方を十分に理解し、時間の使い方、ワーク・ライフ・バランスのとり方を身につけられている。	社会の中で働く目的や働き方を理解し、時間の使い方、ワーク・ライフ・バランスのとり方を身につけられている。	社会の中では働く目的や働き方を理解し、時間の使い方、ワーク・ライフ・バランスのとり方を身につけることができていない。
（3）自分を理解するために、自分からみた自分、他者からみた自分の長所や短所を知り、より深く自己を理解する	自己理解	自分を理解するために、自分からみた自分、他者からみた自分の長所や短所を十分に知り、より深く自己を理解することができて他者にも目を向けられる。	自分を理解するために、自分からみた自分、他者からみた自分の長所や短所を十分に知り、より深く自己を理解することができている。	自分を理解するために、自分からみた自分、他者からみた自分の長所や短所を十分に知り、より深く自己を理解することができている。	自分を理解するために、自分からみた自分、他者からみた自分の長所や短所を知り、より深く自己を理解することができている。	自分を理解するために、自分からみた自分、他者からみた自分の長所や短所を知り、より深く自己を理解することができていない。
（4）働く場としての社会について知識を得て、働き方についてイメージできるようになる	将来への見通し 実行力	働く場としての社会について知識を十分に得て、様々な働き方についてイメージできるだけでなく、体験できている。	働く場としての社会について知識を十分に得て、様々な働き方についてイメージできるようになっている。	働く場としての社会について知識を十分に得て、働き方についてイメージできるようになっている。	働く場としての社会について知識を得て、働き方についてイメージできている。	働く場としての社会について知識を得て、働き方についてイメージできるようになっていない。